

編集後記

『急がないと、最終バスに乗り遅れますよ!』

会誌21号も、最初はどうかと心配しましたが、何人かの協力者のお陰で、それなりにまとまりました。ただ、去年は総頁148のうち、丁度20号と言うこともあり、11号から20号までの会誌の「内容別一覧表」等を設けました。それを除いた実質の頁数は、126です。12号の190頁からは、隔世の想いをします。

今回も総頁数120の中から、柿崎さんの追悼文を除くと、かろうじて100頁をクリアーしたに過ぎません。来年はどうなるのでしょうか？

毎年、笛吹けど踊ってくれる人は限られ、それも年々減って行きます。

勿論、笛が下手だから踊れないの批判もあると思いますが。

今回は柿崎さんが亡くなられた衝撃に始まり、いよいよ印刷・製本に回す段階になって、南部久子様(1

05)がご逝去されたニュース。久子様は千二小には関係ないものの、千里山には深く深く関わっておられます。お嬢様の敦子様の話は皆様もよくご存知のこと。

もつとも千里山会の会員の皆様の年齢を考えると、この種の訃報は止むを得ないこと。命あるものいずれは滅する運命。残された日々を大事にしたいものです。千里山会とて同じこと。この会が、この会誌がいつまで存続できるのか、私如きに解ることはありません。ただ言えることは、寄稿して下さいの方がおられる限り、私は会誌の編集を続けたいと思います。

出来ることなら、あんな下手な川柳や童話もどきで枚数稼ぎしなくても、それなりの体裁を保ちながら、会誌発行を続けられることを願います。

それは一重に皆様の寄稿に寄ります。

さあ! 急いで下さ。でない、最終バス(会誌発行の打ち切り)に乗り遅れますよ。内容は何でもOKです。貴方の得意とする分野、長年親しんできたもの・・・さあ、筆を執り、雑紙にまず一文を!

初めの一步です。

萩原記